

卷

頭

言

それぞれの旬

さいたま市教育委員会
生涯学習部長 林 保 秀

野菜づくりの真似事を始めて4年目となる。土づくりをベースに、草取り、水やり等毎週末の日課となっている。四季折々、冬の霜を被った白菜、春には厳寒を越えたキャベツの甘さ、夏のトマト、キュウリの瑞瑞しさ、秋のサトイモ等の根菜類、いずれも大地の大いなる季節の恵みに感謝感謝である。

今では、どんな食物でも季節を問わず、手に入れることができるが、露地物には、それぞれ旬があり、食べて一番美味しい時期があり、やがて、旬を過ぎると花を付け、果実を実らせ、種子を付け、次の世代への準備を行う。

私達人間は、人生の旬をいつ迎えるのだろうか。会社人間として、また自営業者として、日々努力し、旬を永く保つ人、未だ迎え得ぬ人、各人様々な態様をもっている。

思うに、人間は草花とは異なり、個人の意思により、人生を創り出せる種であり、自らが望むことにより、何度でも旬を迎えることができる存在である。

過日、訪れた各社会教育施設では、絵画・茶道・華道・英会話・様々なスポーツ等に市民各層の多くの方々が、今まさに、それぞれの旬とも言える、輝いた顔で活動されていた。

更に、今後は2007年問題、所謂団塊世代の大量退職時代を迎えることもあり、より一層学習機会や情報提供の充実に努める等、市民誰もが、いつでもどこでも「学べる、選べる、生かせる」さいたま市の学習環境を目指して、微力ながら全力を傾注していかねばと心新たにしているところである。